

(19) 福 祉

1 設置科目及び履修要件 (カッコ内は標準単位数)

社会福祉基礎 (2~6)	原則履修科目
介護福祉基礎 (2~6)	
コミュニケーション技術 (2~4)	
生活支援技術 (4~12)	
介護過程 (2~6)	
介護総合演習 (2~3)	原則履修科目
介護実習 (4~16)	
こころとからだの理解 (2~8)	
福祉情報 (2~4)	名称変更



ここがポイント!

- 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加。
- 福祉従事者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加。
- 福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実。
- 福祉実践における多職種協働に関する学習の充実。
- 福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実。
- 従前の「福祉情報活用」を変更し、プログラミングの内容を追加。

2 教科の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することをめざす。



ここがポイント!

福祉ニーズの高度化と多様化、倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働の推進、ICT・介護ロボットの進歩などを踏まえ、現場実習等の実践的・体験的な学習活動の一層の充実が求められる。

3 各科目の内容 (主な変更点等)

社会福祉基礎	○ 指導項目「2 人間関係とコミュニケーション」 ・ リーダーシップや組織の在り方など、チームマネジメントに関する内容を追加。
介護福祉基礎	○ 指導項目「4 介護における安全確保と危機管理」 ・ 福祉用具と介護ロボットの意義や活用に関する内容を追加。
コミュニケーション技術	○ 指導項目「3 福祉実践におけるチームのコミュニケーション」 ・ 福祉実践の場における他の職種との情報共有、多様化している記録媒体や情報機器の有効な活用方法に関する内容を追加。
生活支援技術	○ 指導項目「4 終末期の支援」 ・ 終末期における介護の意義や目的、具体的な支援方法に関する内容を追加。 ○ 指導項目「5 医療的ケア」 ・ 医療の倫理、医療的ケアに関連する法規、医療的ケアにおける介護職員の役割、健康状態の把握方法などに関する内容を追加。 ・ 呼吸機器の構造と機能を含めて喀痰吸引の基礎的知識や実施手順などに関する内容を追加。 ・ 消化器系の構造と機能を含めて経管栄養の基礎的知識や実施手順などに関する内容を追加。
介護総合演習	○ 指導項目「3 調査、研究、実験」 ・ 介護実践の科学的探究を推進する実験に関する内容を追加。
こころとからだの理解	○ 指導項目「2 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解」 ・ 健康状態の把握方法については、医療的ケアと関連付けて学習することを追加。 ・ 具体的な事例(心的外傷後ストレス障害(PTSD)やストレス等)を通して、サービス利用者の状態や状況に応じた緊急時・災害時における介護に関する内容を追加。
福祉情報	○ 指導項目「3 情報機器と情報通信ネットワーク」 ・ 情報機器の基本的な構成要素とプログラミング及びソフトウェアの役割と特徴に関する内容を追加。

4 各科目の履修に関する配慮事項

- 福祉に関する各学科においては、原則として福祉科に属する科目に担当する総授業時数の10分の5以上を実験・実習に充当すること。
- 「介護実習」や「介護総合演習」における現場実習及び具体的な事例の研究や介護計画作成に際しては、プライバシーの保護に十分留意すること。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業の創造

「何ができるようになるか」～福祉科において育成をめざす資質・能力～

知識・技術	・ 福祉の各分野についての体系的・系統的な理解及び関連する技術
思考力・判断力・表現力等	・ 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力
学びに向かう力・人間性等	・ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築をめざして自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

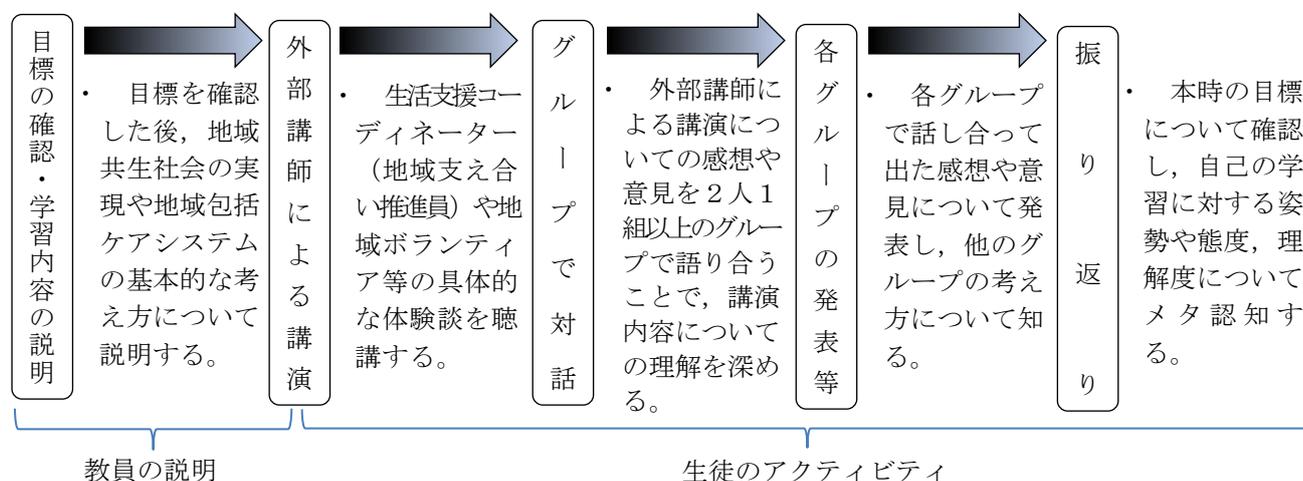
「何を学ぶか」～福祉科において重視する学習内容・学習活動～

- 人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力について学ぶため、次の学習活動を重視する。
 - ・ 他者との討論により課題の解決策の考案などを行う学習活動。
 - ・ 他者の考えに耳を傾け、対立する意見であってもそれを踏まえながら自己の考えを整理し伝える学習活動。
 - ・ 地域を学びのフィールドとして、様々な職業や年代の地域住民などつながりを持ちながら信頼関係を構築し、協働して課題の解決などに取り組む学習活動。
 - ・ 職業資格の取得やコンテストへの挑戦などを通して自ら学ぶ意欲を高める学習活動。

「どのように学ぶか」～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

- 目標を確認し、見通しをもつ。
- 学習活動の中で、様々な成功と失敗を体験し、その振り返りを行うことで、自己の学びや変容に気付く。
- 自らの考えを広げ深めるために、生徒同士や福祉関係者などとの対話・討論を行う。
- 様々な知識、技術などを活用して福祉に関する具体的な課題の解決策を考案する。

【社会福祉基礎：「地域福祉の進展」での実践例】



【授業改善のポイント】

社会福祉基礎や介護福祉基礎などの座学の指導を行う際にも、福祉現場での具体的な事例を通じて、福祉に関する課題や職業人に求められる倫理観について思考を深める機会を設ける。